

## 令和4年度 第2回松本市教育文化センター専門委員会 会議録

### 1 日時

令和4年10月7日(金) 午後3時30分～午後5時

### 2 場所

教育文化センター 201会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

ア 研修委員会 原委員(専門委員会委員長)、大王委員、重盛委員

イ 視聴覚委員会 布川委員、矢代委員

ウ 科学博物館委員会 宮城委員(原田委員は欠席)

#### (2) 事務局

臼井教育政策課長、高橋教育文化センター所長、一ノ瀬科学博物館長、小林指導主事、上條指導主事、望月主任、桐原指導員、鈴木指導員、上條旧山辺学校校舎館長

### 4 内容

#### (1) 開会

#### (2) 原専門委員会委員長あいさつ

コロナの終息がなかなか見えない中でも、文化祭や修学旅行が行われている。小学校のアルプスタディを視察したが、子どもたちは生き生きと取り組み、試行錯誤する姿があった。本日の専門委員会をとおして、アルプスタディがより充実したものとなるようご意見を頂きたい。

#### (3) 会議事項

##### ア 小学校アルプスタディについて

- ・ 全28校中26校で実施済、2校は12月に延期
- ・ 児童アンケートの結果、「このような学習をまたやりたいですか」という設問に対して、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた回答が97%
- ・ 職員アンケートの結果、学びの楽しさやわかる喜びを感じられるか、児童が主体的に学んでいたか等の各設問に対して、肯定的な回答がいずれも100%
- ・ 自由記述では「アルプスタディでの学習内容を理科の学習や栽培活動、校外学習等に関連付けながら学びを深めている」、「指導の仕方等、担任として学ぶことが多かった」等の回答あり

##### 【委員からの意見や質問等】

- ・ 普段はおとなしい印象の学年でも、科学ではとてもつぶやきが多く生き生きとしていて、アンケートの通りの姿だった。
- ・ 知識面と技能面をバランスよく組み合わせた内容であったことから、子どもたちも喜んで学習に取り組んでいた。

- ・ 授業の展開が緻密で、既習事項を組み込み、子どもと確認しながら授業を進めている指導に感心した。
  - ・ 実体験を大切にした学習のプロセスが際立っており、それが子どもたちに響いていた。
  - ・ 子どもたちに言葉をかけながら楽しそうに指導していたことで、子どもも目を輝かせて学んでいた。
  - ・ 全員が手に取って活動できるという点が良かった。子どもの発達段階に合った内容で、必要に応じて担任が個別指導に入ることができていた。
  - ・ プログラミングでは、子どもが生き生きと取り組み、自分の願いに沿って何度も試行錯誤しながら深めていた。展開は、学校の授業でも参考になる。このような学びの展開を本校の職員に見せて頂ける事はありがたい。
  - ・ アルプスタディの授業を見ることは、若い先生にとって自分の授業を振り返り指導改善に活かしていく研修の良い機会になる。
  - ・ センターの先生方が子どものつぶやきを拾い、つなぎながら課題を明確にして授業を進めていた。このような授業を目の当たりにすることは教職員研修として位置付くのではないか。
  - ・ 学校では体験できない学びがアルプスタディによって保障されている。
  - ・ ぜひ全ての学校が参加できる形で継続してほしい。
- イ 中学校アルプスタディについて
- ・ プラネタリウム、学都松本探究、プログラミング、旧山辺学校校舎学習を実施し、希望する学校に天体観測室見学も実施
  - ・ 視察にあたっては学校現場で子どもと向き合う感覚を持ちながら見てほしい
  - ・ より良い指導や教材の活用について共に考え発信したい

【委員からの意見や質問等】

- ・ ここでしかできない学びをお願いしたいと昨年度から提案をしてきた中、今年度の方向は大変良いと思う。
- ・ 中学生も旧山辺学校で学ばせていただけるのはありがたい。
- ・ 子どもが主体的に学ぶためには、面白そうだ、やってみたい、ワクワクすると思える必要がある。「指令書」や、自分達で課題を決めることなど、子どもが主体的に学んでいけるような工夫があることはありがたい。
- ・ 松本で育ちながら上高地のことを知らないまま県外に出て行く子どももいる中で、このような内容を扱っていただけるのはありがたい。
- ・ 1年理科で火山や岩石についての学習があるので、そこと結びついた探究的な学習ができるのではないかと期待している。プラネタリウムについても松本という地域について学ぶことができる内容だと感じる。
- ・ 昔は厳しい規律のある中で小学生が学んでいたことや、くずし字や縄ないなど

の文化について、知識として知っていても実際に体験したことのある子どもはほとんどいない。自分で縄ない体験したことを子ども達はよく覚えている。

→【事務局からの返答、意見】

各学校で主体的・対話的で深い学びを目指す中で、アルプスタディの授業が説明的で教師主導であってはならないと肝に銘じ、引率された先生方にとっても学びのある授業になるよう構想している。

#### (4) 部会での協議

ア 科学、プラネタリウム【大王委員、重盛委員、宮城委員、一ノ瀬、小林、鈴木】

(ア) 教育文化センターの貸出し教材を活用した授業づくりについて

- ・ 令和4年7月、女鳥羽中学校で上高地の岩石を活用した授業を実践した。
- ・ 生徒が上高地の岩石に触れ「上高地で滝谷花崗閃緑岩に触ってみたい」という発言があった。
- ・ 岩石を貸し出すだけでなく、教材研究資料をセットで貸し出すことで学習効果が高まる。教職員の研修としても非常に効果的なものとして位置付けていきたい。

(イ) 協議

- ・ 地域素材を扱うことで学習効果が高まる。地域素材の活用や科学博物館との連携は学習指導要領が求めている方向である。
- ・ 上高地の岩石が40個あり、全員が一つずつ観察できることがよい。学校には岩石試料が班に一つしかない。
- ・ 組立望遠鏡については、総合的な学習の時間に活用したいということで、伊那小学校5年生が12月に教育文化センターで校外学習を実施する。松本市内でも総合的な学習の時間で天文分野について扱っている学校があるため、活用できる。

(ウ) 今後の予定

- ・ 教育文化センターでは、学校を対象に教材の貸出しを開始
- ・ 引続き教材及び授業づくりについて実践研究を進め、学校へ報告

イ ICT、プログラミング【布川委員、矢代委員、上條、桐原】

(ア) プログラミング学習の進め方について

- ・ コースに沿った走行に加えて、前車を追従するプログラムも制作してはどうか。

→【事務局からの返答、意見】

今年の中学生は小5でアルプスタディを経験していない。慣れない子ども達が、どこまでできるかを考えて今の展開としている。設定した課題をクリアした生徒向けには、発展的に取り組んでいける課題を用意している。社会問題にも目を向けていかれるよう、展開をさらに工夫したい。

- ・ 学校でも必要があれば時間割を調整して、半日や全日で一つの教科を行うことがある。アルプスタディの日程も学校の希望に応じて柔軟にできないか。  
→【事務局からの返答、意見】

現状では同じ時間に1クラスずつしか受け入れられないため、授業の希望が偏った場合の調整が難しい。また、2時間ずつの授業を受けるとすると、学年を2日に分けて来てもらう等の対応が必要となるが、学校の負担も大きいのではないか。学校に価値ある学びだと受け止めてもらえれば、2日に分けて来館し、さらに探究的に学んでもらえるかもしれない。

(イ) 成果のアウトプットについて

- ・ 小学校向けアルプスタディの学習環境をベースに、担任している特別支援学級の子ども達にCUTEBOTでのプログラミングの授業を行いたい。子どもの特性に合わせ、プログラミング環境の工夫等も行っていきたい。
- ・ アルプスタディでの学びの様子と関連させて、本校技術科でのプログラミング学習の取り組みや、プログラミングを通じた探究的な学びについて発表したい。

(ウ) 今後の予定

部会での活動成果は、令和5年2月に実施する教文センター主催の教職員研修で発表していただく予定。

(5) 閉会